

放送番組審議会議事録

1. 日時 平成25年3月18日(月) 11:00～12:45

2. 場所 株式会社JCN市川 会議室

3. 出席者

【放送番組審議委員】増田定男、瀬間健司、高根英樹、石田勝彦、東出麻子

【事務局】株式会社JCN市川 代表取締役社長 東尾 重信、取締役 森川 雄彦

企画・制作部 清水智之、山口由晃(議事録担当)、ジャパンケーブルネット(株) 日沖 英明、

4. 配布資料

- ・JCN市川放送番組審議会規定
- ・株式会社JCN市川 放送基準
- ・2012年度、2013年度放送番組審議会市川局番組紹介資料
- ・につぼんケーブルチャンネル企画書
- ・JCN広域放送企画番組概要

5. 社長挨拶および事業概要説明

皆様の貴重なご意見は今後の番組編成に役立てて参りますので、活発なご意見を頂戴したいと存じます。
－挨拶に続いて、社長から資料に基づき、以下の説明があった。

- ・既存顧客に対するサービスの認知度向上について
- ・「顧客満足の向上」から「顧客感動の創出」へより高いレベルのサービスの提供について
- ・くらし密着をコンセプトとした事業運営について

6. 議事内容

(1)JCN市川への社名変更に伴う「JCN 市川放送番組審議会規定」の一部変更について審議

－事務局から資料に基づき、以下の説明があった。

- ・社名変更に伴い、現規定及び放送基準に記載してある社名部分の変更について
- －以下を決定した。
- ・委員全員異議なしで承認された。

(2)JCN市川コミュニティチャンネル番組編成について

－事務局から資料に基づき、以下の説明があった。

- ・地域に根ざした企業として、市川市民の生活がより豊かで、安心安全な番組作りを行うため、地域性、娯楽性、教育・学習に関する番組制作を行うことでコンテンツの強化。データ放送と連携して安全・安心情報の強化。視聴者に伝わりやすいタイムテーブルの工夫を行うなどの方策をとっている。
- ・地域情報番組コンテンツ強化を図るため、通販番組を削減し、暮らしに密着した地元番組の割合を増やし、バランスよく放送することとした。
- ・安全・安心情報の強化を図るため、市川市連携し、行政と連携したデータ放送「行政情報コンテンツ」を構築し、2012年6月から運用を開始した。
- ・視聴者に分かりやすいタイムテーブルにするため、特定の時間帯に同じジャンルの番組を集約した。
- ・地域とのグリップ力強化を図るため、2013年度にJCN 市川主催のCMコンテストを開催し、地域の魅力を再発見するCMを募る。
- ・2012年10月から地デジ10chにて、新チャンネル「につぼんケーブルチャンネル」の放送を開始した。
- ・デイリーニュース内でお買い得情報の放送のほか、市川の歴史紹介番組、市民参加型のダンス番組、高齢者向けにスマートフォンのレクチャー番組の3つの地元密着型の新番組を放送し、地域とのグリップ力強化を図っている。

(3)につぼんケーブルチャンネルについて

―事務局から資料に基づき、以下の説明があった。

- ・住んでいる地域の情報だけでなく、他県の情報を視聴者にご覧いただくため、日本全国のケーブルテレビが制作した番組を視聴できるようにするため2012年10月より地デジ10chにて放送開始。
- ・日本全国を7ブロックに分け、各地のCATV局制作の番組を週更新で編成し、地域の特色溢れる番組を毎日放送。
- ・関東圏を中心に地域のイベントや観光名所、様々な施設から WiMAX 生中継を行っている週末 Do する生テレビを2013年度4月から J.COM と共同制作し、より多くの人たちに地域の情報を発信する。
- ・2013年4月から新コーナー「ふるさと便り」を新設し、地方のイベント告知、首都圏で行われる物産展などの情報を伝える。

(4)JCN市川コミュニティチャンネルに関するご意見・ご要望

―番組審議委員から以下のご意見・ご要望があった。

- ・データ放送でより詳細な情報を扱ってほしいを出して欲しい。
(PM2.5 の情報やコミュニティバスの時刻表など)
- ・わくわく一年生は地域に根ざしたとても良い番組だと思うので、これからも続けて欲しい。
- ・防犯情報のひとつとして自治会で行っているパトロールの様子を取材してはどうか。
- ・定点カメラの数を増加させ、交通の要所に設置して欲しい
(国道357号線の入り口など)
- ・生活情報として飲食店を中心に放送しているが、衣・食・住の情報をバランスよく放送して欲しい。
- ・新しく放送するダンス番組に学生を取り入れるために、学校にも募集をかけてみてはどうか。

以上